

2025 年度中国語学科 中期留学成果報告レポート

提出者：竹川 綾乃

所属：中国語学科 3 年次

西安外国语大学での授業には、文法や単語の内容はもちろん含まれているが、常に「実践」と隣り合わせのものであった。特に印象的だったのは文法の講義である。教室で学んだ文法が、実際にどのように使われるのか、ネイティブが使う例文を基に、深く掘り下げた解説が行われた。また、インプットだけでなく、アウトプットの機会が豊富に設けられていた点も特徴的である。学んだ文法を定着させるため、実際に学内にて、現地の学生にインタビューを行う課題もあった。教室の外へ飛び出し、自分の言葉がどれだけ通用するかを肌で感じる経験は、語学学習における大きな自信となった。クラスには様々な国籍の留学生が集まっており、授業の一環として、自国の文化を紹介するプレゼンテーションが実施された。私は日本の食スタイルや結婚式の贈答習慣について PowerPoint を用いて発表した。

今回の留学で得た最大の成長は、コミュニケーションに対する姿勢の変化である。渡航当初は、自分の中国語に自信が持てず、ミスを恐れて消極的になってしまう場面が多くあった。しかし、スピーキングレッスンにおいて、「完璧に話すこと」よりも「伝えようとする意志」が重要であると気づき、たとえ間違っていても、自分の言葉で話すことで、ミスを恐れずに挑戦できるようになった。この経験を活かし、将来は多様な価値観を持つ人々と協働する仕事に挑戦したいと考えている。